

世界が注目 震災からの水インフラ復興

世界水フォーラム併催 水のエキスポ 日本の先進技術にも高い関心



日本パビリオン・大成機工のブース

3月12日に開幕した第6回世界水フォーラムと「水のエキスポ」では、国交省主催

の「日本パビリオン」が設けられ、日本の先進技術や東日本大震災からの復興状況の報告などに大きな注目が集まった。日本パビリオンには、日本水フォーラム、国交省、環境省のほか、水資源機構、下水協、さらには大成機工、日本工営、日本ポリグルといった関連民間企業も含め、計15団体が出展している。また、共有スペースでは10団体がプレゼンテーションを行う。

第6回世界水フォーラムが開幕

「水問題解決の時」テーマに 史上最多の400セッション

第6回世界水フォーラム(WWF)が、現地時間「水問題解決の時」を主



挨拶するフォーシオン会長(右)



フィオン首相の挨拶

要テーマとしてフランス・マルセイユ市のパーク・シャノ国際会議場で開催されている。「世界水フォーラム」は世界最大の水問題に関する国際会議で、3年に一度、国連の「世界水の日」に合わせ世界各地で開催している。回数を重ねることに規模が拡大し、今回は会期中、史上最多となる400の専門セッション、1000時間を超える意見交換・討論会、約1000人以上の講演者、120カ国から閣僚級参加者を含め2万5000人の参加が見込まれている(WWF事務局発表)。17日の閉会式では、今後の行動規範として「マルセイユ閉会宣言」が、国際連合からは「世界水発展報告書(第四版)」が発表される予定(関連記事3面)。



環境省もブースを出展(中央左は鷲坂長美・水・大気環境局長、左に吉村和就GWJ代表)



会場に続々と詰めかける参加者

初日の開会式では開催地マルセイユのクラウド・ガウディン市長が歓迎の挨拶、そして主催者の世界水フォーラムのルイ・フォーシオン会長は「財政的、社会的、環境的な制約の中で実現可能な提案を議論し水の将来につ

いて語りあいたい」と力強く宣言した。フランスのフィオン首相は「水には生態学的な面と持続可能な発展を支える二面があるが、この2つは切り離すことができない。人々はGDPだけに基かない新しい水

モデルを考えるべきで、そのために水の専門家、ハイレベルな政治家、水に関わるNPO、NGOがお互いに意見交換してもらいたい」と挨拶した。開会式の後、120カ国の閣僚級代表団による閣僚会議が開催され、12の最優先課題(温暖化への適応策、グリーン経済と成長、水と衛生の権利の普及、国際河川の協力推進、海水淡水化の将来、水とエネルギーと食料問題)などが討議された。この閣僚会議で日本は、奥田健・国土交通副大臣が「水関連災害」のテーマ議長を務めた。また奥田氏は、会期中に日中韓・水担当閣僚級会議」で意見交換を行う。翌13日からは、世界各

国の国会議員による政治プロセス会合や、さらに世界各地の自治体による上下水道におけるガバナンスのあり方、地域ごとの水と持続可能な開発などが討議される。また、公式プログラムとは別に公開、非公開のイベントも多数開催される。